

所沢カルチャーパーク感想文

八王子から所沢の亀ヶ谷に会社ごと移転して 18 年になります。移転間もない頃は、あちらこちらと道を覚えるために、用もないのに車を走らせるものです。浦所街道と呼ばれる 463 の渋滞を嫌って、日比田方面から若松町へ抜ける裏道に鬱蒼と茂った林がありました。車でも、その林道の中を通るには少し勇気がいる景色だったと記憶しています。木漏れ日の差さない道は急に狭くなり、緩やかなカーブが続いているから出口は全く見えません。しかも、下草の生えた薄暗い林の中には、ゴミが山のように点在していて、今でも気味の悪さだけが印象に残っています。

つい先頃、市民大学ファームからのメール添付に「所沢カルチャーパーク・ボランティア体験会」に案内状の地図があり、あの林が「所沢カルチャーパーク」であることを知りました。

ところざわ倶楽部が主催のゴミ拾いですから、陽子ファームの落ち葉掃き、柳瀬荘の遊歩道造りと、私はその成果を見てきているので参加しないわけにはいきません。やはり、30 名位は集まったでしょうか。一人一人は小さくてもスクラム組んで取り組めば、それ以上の力などいないのでしょうか。

初めて入場した「所沢カルチャーパーク」。下草はきれいに刈り取られ、木漏れ日にあふれた林。臭い立つ若葉の緑が青空に映えて、実に美しい。あの気味の悪い印象はすっかり吹き飛んでしまいました。そして、この景観を造り上げた素晴らしい仲間達を、本当に尊敬いたします。

すすかめ 鈴木安弘